



114
A1198



緒言

トスル處口ハ銀行ノ本体ト並ニ真確ノ

根原ニ據テ銀行ヲ整正セハ其便益ノ國中ニ是

ノ可キ者トナ單一ニ説明スルニ在リ旨趣ヲ

明瞭ナラシメシメ為ノ通篇ヲ分ツテ三章トス即

ハチ

第一銀行ノ本體

第二銀行ノ便益

第三銀行ノ管理方

余カ企望スル處ハ銀行ノ設立方若シ真確ノ根

大正十一年四月
天限侯爵郵寄贈

淨鳴



原ニ據ル時ハ無邊ノ便利ヲ生ス可ク之ニ及シ
其管理施為ニ於テ少クモ忽ガセニスル所アリ
バ商法上立口ニ嚴肅ナル禍ヲ起スベキヲ初學
ノ者ニ瞭然タラシムルニ在リ
余レ且ツ銀行ノ功用即ハテ實際事務扱方ヲ解
明ス可シ而シテ余カ筆記スル處ハ初學ノ者解
シ難キニ苦シムノ點ニ於テ幾多ノ明晰ヲ添フ
ルト有テニト深ク信スル處ナリ

ワニ

第一章

銀行ノ本體

第一 銀行ハ金額(間々大額)金ヲ蓄フル家ニ

シテ而シテ斯ノ如ク蓄積セル者ハ尽ク銀行ノ
所有物ナルニ非ス其金額ノ過半ハ銀行ノ持主
トハ甚タ殊ナル人ニ屬スルヲ衆人ノ明知スル
處ナリ銀行ノ通語ニテ此等ノ人ナリ金預
ト稱ス預人ハ種々ノ緣故ヨリノ銀行ニ委託ス
ルナリ自身ノ家強堅ノ室ニ藏スルヨリノ
盗難ニ於テ一層安全ナルヲ信スルヨリ銀行ニ

大蔵省

委託スルアリ手元
ラハ金額増ス期ナク銀
行ニ入ルレハ利子ヲ加フルヲ以テモ
リ又タ下節ニ説明スルカ如ク金ヲ運搬スルノ
勞無ク何時ニテモ金額中ノ若干ヲハ田ニ管轄
スルヲ得ルヲ思フヨリ委託スル有リ銀行過半
ノ金額ハ上諸人ヨリ委託スレモ茲ニ又委託ス
ル一種ノ人有リ某地ヨリ某地ニ金ヲ送ラント
ナ願フ者即チ是ナリ是等ノ人ハ回送セント欲
スル金額ヲ銀行ニ仕拂ヒ銀行ニテハ即時ナリ
又ハ期日ヲ立テ宛名先キノ友人代理者或ハ回

送人へ對スル貸方ノ者ニ同額ノ金ヲ仕拂ハシ
トチ約ス
第一 然レモ預人回送人共ハ金銀ヲ引出ス
ニ於テ疑ヒ無キニ非レハ付托セス故ニ銀行取扱
人ト為ラントチ望ム者ハ次ノ二者ニ於テ適セ
ザル可ラス第一正直信實ノ性質ニシテ決シテ
詭詐ヲ以テ預金ヲ奪フノ事無キニ於テ世上
信任ヲ得サルベカラス第二自身ノ所有ニ屬ス
ル若干ノ金額無カル可ラス此ハ假令ヒ金銀
テ盗難其他ノ損失ニ遭フモ猶ホ預リ金銀ハ其

人へ仕拂ヒ得ルト云ノ信用ヲ得ルカ為メナリ
銀行取扱人ノ需用スル右金額ヲ「キャピタル」一稱
ス故ニ銀行資本ハ三所ノ本源ヨリ登スル下ヲ
知ル

第一銀行扱人ノ資本

第二預ケ金

第三回送金

右三者ハ銀行ニ入ルノ緊要ナル者ノナリ然リ
ト雖ヒ第一源ノ金既ニ備ハルニ非ザレハ第二
第三源随ツテ登出シ来ラザルヲ注意セズンハ

有ルヘカラス

第三 斯ノ如ク銀行ニテ聚ムル金ハ空ニク其
庫中ニ卧サシムルニ非ス銀行ノ資本ト人民ヨ
リ付托スル處ノ金ヲ保セ之ヲ以テ貸附金ヲ為
シ又ハ隔絶ノ地ニテ仕拂フベキ手形ノ為メニ
出金シテ代金取立手形 利子ヲ負フ公債証書ヲ買
ヒ或ハ金銀貨幣等ヲ賣買ス然レモ凡ク本銀ヲ
用ユルニ非ス常ニ適宜ノ額ヲ手元ニ留メ置キ
テ金預人ノ引出サシムヲ望ム者若シクハ銀行
仕拂手形ヲ持参スル者或ハ其銀行各種ノ仕拂

ニ備フ右ノ如ク需用ニ供セン為メ手元ニ蓄フルモノヲ「カシリゾルケ」預備金ト稱ス凡テ銀行營業ノ盛大ニ至ルノ秘訣ハ常ニ萬般ノ仕拂ニ供スル十分ノ預備金ヲ蓄フルニ在リ何トナレバ銀行ニテ仕拂ヲ止ムルヤ否ヤ乍テ信ヲ世上ニ失ヒ預ケ金ハ入ルヲナク竟ニ其業ヲ廢スルニ至ルハ明白ナレハナリ

第四 夫レ銀行ニテ金ヲ貸付ケ代金取立手形ヲ買ヒ金貸地金銀ヲ買ヒ及其他ノ事務ヲ扱フハ其意利益ヲ得ルニ在ラスヤ故ニ貸付金ヨリ

ハ利子ヲ得代金取立手形ヨリ手数料並ニ利子ヲ得金貸地金銀ハ買受直段ヨリ高價ニテ賣リ以テ銀行ノ利益金トス然レニ銀行ノ消費モ亦少トナラザルナリ預金ノ利子諸役員ノ給料等ヲ拂ハザルヲ得ズ且銀行ヨリ金ヲ借ル者ノ内返納セザル者有ルモ知ル可ラス右等ノ諸費ヲ利益金中ヨリ減シ去リ差引残數ハ即チ純益金ニシテ其資本ヲ持スル人ノ所得トス

第五 是ヲ以テ之ヲ見レハ銀行ノ本體ハ如何ナル者ナルヤハ明白ナリ銀行ハ金銀貸借仕拂

手形、公債証書、金貨、地金、銀等ノ賣買ヲ業トスル者ナリ之レ等ハ或ハ正金ヲ以テシ或ハ又正金ヲ拂ハンコトヲ約スル者諸証券ノ手類ヲ以テ取引ヲ為スト知ラズニバアル可ラス又人民ヨリ金ヲ借り相當ノ預備金ヲ蓄ヘ餘ハ以テ土地家屋船舶或ハ綿或ハ米絹等ヲ買フコト有ル可シ此種ノ取引キハ甚タ利益有レト銀行事務ト云ヒ難シ其ノ半ハ銀行事務ニ屬シ半ハ地主船主商人ノ事ニ屬スルヲ以テナリ真正ノ銀行事務在者前ニモ言フ如ク人民ヨリ金ヲ借り之ヲ貸付金

手形、公債証書、地金、銀等ニ用ユル者ニテ土地家屋船舶諸貨物ニ以スレバ大異アリ土地家屋船舶諸貨物ハ安全ニメ且ツ秀義ナル産ト稱ス可キモ價格ノ高低甚シク且ツ又何時ニテモ賣却スルヲ得ル者ニ非ス銀行ニテハ之ニ反シ何時ニテモ直チニ正金ニ換フベクメ又價格ニ於テ大ヒニ高低ヲ為サル者ヲ買フコト以テ緊要トス譬ヘハ銀行ニテ貸付金ヲ為人時ハ期日ニ至ラハ期定ノ金額ヲ拂ハシコトヲ約スル証書ヲ借人ヨリ受取ルコトナリ此証書ハ價格ニ於テ高

低無ク且ツ通常直チニ正金ニ換フベシ今マ若
シ銀行ニテ正金切迫シ預備金過少ナルハ貸
付金ヲ抵當トシテ金ヲ借ルヲ以テ其金額直チ
ニ増加スベシ公債証書モ通常之ト同一ナルベ
シ然レバ則チ何故銀行ニテハ此類ニ金銀ヲ用
ヒテ土地家屋、船舶貨物等ニ用ヒザルヤノ疑團
ハ釋然タルベキナリ銀行ニテハ常ニ諸般ノ需
メニ應セザル可ラザルヲ以テ又何時ニテモ金
ニ交換スヘキ類ヲ擇デ之ヲ用ヒサル可ラス
第六 銀行扱人ハ負債ノ取引人ナリト云ハ、

銀行事務ナル詞意ヲ解定スルニ於テハ未ダ全
ク尽サスト雖モ簡ニノ且ツ樞要ノ語ナルヘシ
假令ハ銀行扱人カ預金ヲ受取ル時ハ預人ニ對
シテ債ヲ約スルナリ貸付ヲ為ス時ハ借人ヨリ
債ヲ買フナリ公債証書ヲ賣買スル時ハ政府ノ
債ヲ買賣スルナリ隔地ニテ仕拂フ可キ券書ヲ
出ス時ハ回送人ニ債ヲ賣ルナリ銀行扱人ノ其
實又夕金銀ヲ賣買ス然レモ其事務ノ過半ハ債
ノ賣買交易ナリ故ニ初學ノ者銀行扱人ハ債ノ
取引人ナリト云草一ノ思想ヲ心中ニ存セハ何

事ハ銀行事務ニシテ何事ハ銀行事務ニ非ザル
カチ解スルニ於テ困難ヲ致スル無ルベシ
第七 必シモ銀行事務ニ関涉セズト雖ヒ間々
銀行ニ於テ扱フ處ノ一派ノ事務有リ故ニ別節
トシテ之ヲ論ス即ハチ銀行紙幣ノ発行之レナ
リ銀行紙幣ハ乃チ持参スルハ若干ノ金ヲ仕
拂ハシテ片紙ニ印刷スル條約書ナリ銀行ヨ
リ金ヲ受取ル人ハ大額ナル時ハ殊更ニ算計運
輸ニ於テ甚タ不便ナリ故ニ銀行ヨリ金ヲ受取
ル者ハ正金ノ代リニ銀行紙幣金代銀行紙幣ヲ受取ルヲ好

メリ而シテ金代ヲ持参シテ仕拂ヲ需ムル迄ハ
其金額ハ銀行ニ残レリ斯ノ如クメ紙幣ヲ用ヒ
ハ正金ヲ取引キスルヨリハ商人等ノ為メニ大
ニ便ナルヲ以テ其紙幣ハ盡ク銀行ニ販り来ラ
ズ正金同様ニ通用シテ其正金ハ永ク銀行ノ手
ニ残レリ若銀行ニテ歲月ヲ期スル紙幣ヲ発行
スルハ期月ニハ幾何ノ準備金ヲ要スルヤチ
知ル難カラス且ツ過半ノ銀行紙幣ハ常ニ循環
スルヲ以テ全額ノ準備金ヲ備フルニ及バサル
ハ明カナリ故ニ適宜ノ準備金ヲ備ヘ餘ハ貸付

金等ニ用エルヲ得茲ヲ以テ紙幣ヲ発行スル銀
行ニテハ其紙幣ノ流通ニ因テ利益ヲ得ルナリ
此類ノ銀行事務モ前ニ記セル銀行事務ナル詞
意ノ解定即ハテ債ノ取引人ト云ニ外ナク銀
行紙幣ハ流通ノ債ナリ之ヲ發出スルハ貸付
金預金公債証書等ノ如キ他類ノ債ト交換スル
ナリ故ニ之ヲ仕拂フ時ハ乃チ債ヲ償フタルナ
リ

第二章

銀行ノ便益

第一 前篇ニ於テ間々銀行ノ便益ヲ説ク處有
レ凡今又此章ニ於テ詳ニ之ヲ開列スベシ

第一 銀行ハ安全ニ金銀ヲ保守スルノ場
所ナルヲ以テ有用ナリ

若シ吾人自カラ金銀ヲ保守セハ火變盜難ニ因
テ之ヲ失フノ患アリ好シヤ之ヲ失ハザルニ其
保守ニ付テ多少ノ憂慮ナキ能ハズ巨額ノ金ヲ
所持スル人ハ憂慮モ亦随ツテ大ナリ故ニ金銀

ヲ蓄藏スル強堅ノ場所ヲ設ケンガ為メニ若干
ノ失費無キ能ハズ之ニ反シ良好ノ銀行アル時
ハ其憂慮無ク又タ蓄藏ノ場所ヲ建築スルノ費
ヲ省クヲ得如何トナレバ金銀ヲ保全スルハ
銀行取扱人ノ事務ナレバ其倉庫ハ我カ建築ス
ル者ニ勝ルハ必定ナリ且ツ假令ト誤ツテ奪ハ
ル、事有リモ其金ヲ我ニ償フヲハ銀行取扱人
ノ責任ナリ而シテ其金ハ我カ室内ニ在ラスト雖
モ取引キノ間預金ノ全數ナリ又ハ其内若干數
ヲ何時ニテモ引出スヲニ於テ差支ナシ

第二 銀行ハ預金ニ利子ヲ加フルヲ以テ
有用ナリ

商業或ハ必用諸費ノ外有餘ノ金額ヲ自カラ保
守シテ預備金ノ類ト為ス者有リ此金ノ増殖セ
ザルトハ無論ニテ譬ヒ五十年ノ久ヲ歴シモ決
シテ隻貨半銭ノ此金ヨリ生ズル無シ之ニ反シ
銀行ヘ其金ヲ委托セバ多少ノ利子ヲ生ズ然レ
バ則チ全ク生産カノ無キ金ヲシテ生産カヲ生
ゼシメ初メニ利益無キ資本オシテ今ハ利益ヲ起
サシムルナリ

第三 金ヲ借ラシテ願フ人ニ貸付ルヲ
以テ銀行ハ有用ナリ

銀行ノ成立セザル地方ニテハ商人農夫等ノ勤
業多クハ唯其所持スル資本ニ止マツテ大ニ
進ムト能ハス譬ヘハ若干ノ地ヲ所持スル農
夫ヲ莠草木根ヲ鋤去シ耕耨培養セバ生産力多
キ地ト為ル可シ然レニ傭夫ノ給料等ヲ拂フノ
資無ク又タ他ヨリ借ルヲ得ザルハ旧ニ依テ
荒蕪タラシメザルヲ得ズ銀行成立セハ農夫ハ
其目的ヲ達スルヲ得ベシ然ル時ハ農夫ハ富ミ

國中年々ノ産物ハ増加シ傭夫ハ新地開墾ニ於
テ常ニ使役ノ道ヲ失ハザルベシ
他ノ一類ヲ舉テ之ヲ証セン試ニ日本國內ノ
一海港ヨリ東京迄貨物ヲ運送スルニ蒸氣船ヲ
用ヒハ従前費用ノ半ヲ減スヘシト見做サレニ
商人ハ明カニ其益ヲ知レニ商業ノ元金ヲ分ツ
テ之ヲ汽船ヲ買フニ用エルノ力無シ斯ノ如キ
者銀行ノ助ケヲ得ハ其目的ヲ達スルヲ得ベシ
此類ノ變遷ヨリノ國中ニ迄フノ利甚ダ大ニナ
リ運輸ノ價減セバ東京ニ於テ廉價ヲ以テ貨物

ヲ販賣スルヲ得買フ者益多ク貨物ヲ生スル愈
増シ而シテ傭夫ヲ使用スル隨テ多カラズ斯
如クナラハ貨物ヲ産スルノ人ハ多ク産シ多ク
賣ルヲ以テ利ヲ得商人ハ東京ニ運送スルハ貨
物ヲ多ク得ルヲ以テ利ヲ得消靡者ハ廉價ニ貨
物ヲ買フヲ得ルヲ以テ他用ニ供スルノ金銀資
本ヲ餘スニ至ル

第四 銀行ハ某地ヨリ他所ニ金ヲ送ルヲ
以テ有用ナリ

此便益ハ甚ク解明シ易シ假令ハ甲乙ノ二都會

アリ二所ノ商人互ヒニ取引キス然レ銀行無シ
甲ノ商人乙ノ商人ヨリ貨物ヲ取引取ラバ乙ニ借
方ト為ル可シ此債ヲ返サント欲セバ正金ヲ乙
ニ輸ルガ為メ特別ニ使人ヲ出サバ得ス乙
ノ商人甲ヨリ貨物ヲ受ルモ亦同シク使人ヲ送
リテ金ヲ返サバ可ラス今假リニ十人ノ使者
金貨ヲ運送センカ為メ常ニ兩地間ヲ往及スル
ト見做スモ其十人ノ給料旅費等ハ尽ク兩地ノ
商人ニテ辨セザル可ラズ然レニ甲地ニ銀行ヲ
建テ乙地ニ支店ヲ設ケバ商業ノ方法乍チ一變

好結果ヲ生スベシ銀行ノ未タ設立セザルヤ
甲乙ニ借ルル五十万圓乙甲ニ借ルル五十一万
五千圓ナリトセバ兩地ノ負債ヲ償フニ八百一
万五千圓ノ金ヲ運輸シ其往反ニ十人ヲ要シ且
盜賊ノ患モ甚ダ多シ然ルニ銀行ヲ設立セバ甲
ノ商人ハ五十万圓ヲ銀行ニ拂ヒ乙地支店ニ於
テ仕拂フ可キ手形ヲ受取ル可シ又タ乙ノ商人
ハ五十一万五千圓ヲ銀行ニ入レ甲地本店ニテ
仕拂フ可キ手形ヲ受取ル可シ然ルキハ兩地銀
行ノ景況ハ即ハチ甲地本店ハ為換手形代トシ

テ入金五十万圓手元ニ在リ乙地支店ヨリ振出
シタル手形ヲ仕拂フ時ハ一万五千圓ノ不足ヲ
生ズ乙地銀行ハ手元ニ五十万圓有リ本
店ヨリ振出シタル手形ヲ仕拂ヘバ残り一万五
千圓ナリ此時乙ヨリ唯一万五千圓ヲ甲地ニ送
ラハ兩地ノ負債全ク清湔ニ至ルベシ然則冗費
省ケ盜難減シ運輸ノ使役ニ供スル者ハ他ノ生
産力ヲ増スノ勤業ヲ創ム可シ抑モ兩地間ニ往
反スル使人ハ其生産力ヲ助クルニ於テ益無キ
ニ非ザレト唯間接ノミ若シ此ノ九人十人ノ者

農業ニ從事セハ其生産力ハ乍チニ増加スベシ
第五 銀行ハ兩替ヲ為スニ以テ有用ナリ
各人延引無クメ直チニ金銀ヲ換ユルヲ得ルノ
緊要ナルヲチ知ル大券ヲ以テ小券ニ換ヘン
チ願フアリ又ハ紙幣ヲ金銀ニ換ヘ金銀ヲ紙幣
ニ換ヘン
ノ兩替ヲ為スノ家ニテ其要用ナルヲハ人ノ熟
知スル所ナリ

第六 銀行ハ金銀ヲ扱フ人ノ時間ヲ省ク
ヲ以テ有用ナリ

巨額ノ金ヲ受授スル人ハ算計檢閲ニ於テ甚ク
困倦スル者ナリ 銀行設立セハ其困倦ナシ假令
ハ甲乙ニ二万圓ノ借金アルキハ正金ヲ返サズ
メ銀行ヲ宛テ、振出シタル手形又ハ示教書オールドタレヲ
以テ乙ニ返辨スベシ乙ハ此ヲ銀行ニ入レテ預
金ト為スヲ得然ルキハ甲乙共算計檢閲ノ勞無
ク其仕拂ハ少シモ猶豫スルヲナシ又旅行ニ付
テ論セバ大額ノ正金ノ代リニ券書又ハ切手ヲ
以テ仕拂ハ、大ニ時間ト手數トチ省ク可シ
第七 人々ヲメ其歳入ト費用トノ真正ノ

記録ヲ得セシムルヲ以テ銀行ハ有用ナリ
キルバト」氏之ニ付テ説有リ曰ク

若モ一歳中受取ル處ノ金ヲ盡ク銀行ニ入
レ引出シ手形ヲ以テ一切ノ仕拂ヲ為サハ
一歳ノ終リニ於テ唯銀行ノ簿記ヲ檢閲セ
・ 半年中ノ受取リト諸費ヲ明白ニスヘシ且
ツ銀行ハ仕拂ヨリ起ル處ノ爭論ニ於テ要
用ナリ

其故何ニソヤ正金ニテ拂フ凡受取届無キ時ハ
其仕拂ヒタルヲ証明シ難シ假令受取書ヲ取ル
モ猶ホ遺失燒亡ノ患有リ然ルニ銀行ヨリ引出
シテ仕拂ヲ為サバ其手形ハ仕拂フタルヲ証ス
ルニ足ヲ以テナリ

第八 得意先ニ要用ナル報知ヲ為スヲ以
テ銀行ハ要用ナリ

假令ハ隔地ニ金ヲ送ル最好ノ方ヲ告ゲ公債証
届ノ賣買ヲ勸戒シ又ハ或ル人他ト取引キテ始
メトスル時ハ其人ノ生質資本等ニ付キ緊要
ナル報知ヲ與フルノ類枚舉ニ暇アラズ

第九 銀行ハ世人ノ品行ヲ高尚ニスルノ

取向アルヲ以テ要用ナリ

此點ニ付キギルハルト氏説アリ

銀行扱人ハ自家ノ為メ常ニ取引キスル人
ノ品行ニ関シ信實或ハ詭詐勉強或ハ怠惰
謹慎或ハ射利節儉或ハ放奢ナルカヲ深ク
探知シ所有物大ニモ色譽少キ人ヨリハ寧
口所有物大ナラザルモ品行善キ人ヲ擇ヒ
金ヲ貸付ルヲ好メリ故ニ銀行設立セバ品
行善キ人ノ位價ヲ増加スヘシ古來唯品行
善キヲ以テ銀行扱人ノ信任ヲ得微賤ヨリ

與リテ大ヒニ富ヲ為スモノ少カラズ

第二 右ノ如ク銀行ノ有用ナルヲ説明スレド
尚又夕國中ノ為メ甚タ緊要ニシテ容易ク辨明シ
難キ者ヲ示スヘシ即ハチ

第一 銀行ハ大ヒニ國內ノ金ヲ節儉ス

充分ニ此條ヲ解セント欲セバ先ツ金銀ノ本體
ト其功用ニ傾心セザル可ラズ

人民ノ未タ甚タ野鄙ナルハ間々貨幣ノ無キ國
有リ斯ノ如キ國ニテハ物品ヲ以テ物品ニ交易
ス之ヲ「バルタル」ト稱ス其不便タルヤ甚大ナリ

農夫ノ米ヲ衣ニ易エシト欲スルモハ先ツ裁縫師ノ衣服ヲ米ニ易エシテ願フ者ヲ尋子出ササル可ラズ而シテ其人ヲ尋子出セシ時始メテ裁縫師ノ米ヲ與ヘテ以テ一衣ニ易ユヘキヤテ論定シ然ル後テ農夫ノ家ヨリ裁縫師ノ家ニ米ヲ送ルヲ得ルナリ魚ニ易エント欲スルモ亦前同様ノ手順ヲ經其他万物悉ク然ラザルヲ得ル此方ヲ以テスレバ商業ハ決シテ繁榮活動ノ象ヲ顯ハスニ至ラス其不便ヨリメ社會ノ者遂ニ之ヲ救医スルノ方ヲ企ツルニ至ル其救医ノ方

ハ貨幣之レナリ貨幣ノ用ニ即ハチ

第一 貨幣ハ價值ノ本位ナリ

第二 貨幣ハ通高ノ媒ナリ

ハルタルノ方ニ於テハ價值ノ本位立タズ之レ物品ノ價值常ニ變化極マリ無キヲ以テナリ之ニ及シ金銀貨幣(此章ハ唯ニ金ニ関スルヲ要用ナレハ汎説セス)ハ他物品ノ如ク甚シキ變化ナク其價重ニ靜止セリ我輩ノ米ヲ買フヤ或時ハ多量ナル有リ或ル時ハ少量ナル有レ其價直ノ變化ハ米ノ多少ヨリ生シテ而金銀ノ價直

在ラズ故ニ金銀貨幣ハ他各品ヲ測度スルノ位トスベシ若干ノ米ヲ他品ニ易ヘント谷スル片先ツ若干ノ米ヲ金銀貨ニ易ヘハ幾許ノ金銀貨ヲ得ヘキヤナ知ル時ハ若干ノ他品ハ幾許ノ金銀貨ノ價直ト均シキヤハ直チニ辨明スルヲ得ヘシ然レヒ金銀貨ヲ唯價直ノ本位耳ニ用ユル片ハ其用甚ダ大ナラスバルタル法ヲ全ク除キ去ラント欲セバ須ク我カ所持ノ貨物ノ代リニ彼ノ金銀貨ヲ得我ノ金銀貨ヲ以テ彼ノ貨物ニ易ヘシムベシ假令ヘハ我ニ多量ノ米有リ之

ナ衣服農具酒類其他諸品ニ易エントスルニ先ツ金銀貨ヲ以テ我カ米價ヲ測度シ而シテ後チ我カ需用スル處ノ物品幾許ハ我カ米價ニ必敵スルヤナ発見スルヲ得ヘシ然レヒ唯此ノミニテハ我カ米ヲ以テ我カ望ム處ノ物品ニ易ユルニ於テ最良ノ都合ト成スニ至ラズ至便ヲ以テ此事ヲ為サントセハ先ツ米ヲ金ニ易ヘ然ル後金ヲ衣服農具酒類唯其好ム處者ニ易フ可シ金ヲ物品ニ易ヘ又ハ物品ヲ金ニ易ユル也其事業ハ半交易ナリ故ニ貨幣ハ通商ノ媒也

又タ價直ノ本位トス然レモ其用此如キノミ
固ヨリ金銀ハ諸物ヲ生セズ唯物品ノ交易ナリ
スルノミ故ニ金銀ヲ用エルノ意ハ交易ナリス
ルニ在リ夫レ一國ニ於テ用エル金ハ其交易ヲ
濟ス丈ケノ金額ナレバ商業ノ繁昌ナル國ハ金
銀ヲ用エルトモ多ク交易ノ數増加スル時ハ金
銀ノ數モ亦從ツテ増加セザル可ラズ然レモ金
銀ノ貨幣ハ最初一國ノ損失ヲ經ルニ非ズンバ
得可ラズ余當ニ之ヲ詳解スヘシ試ミハルタシ
法ノ行ハル、國ニテ國人ノ金貨ヲ用ヒンコトヲ

決スル者ヲ取テ論センニ其國人ノ金ヲ得ルニ
ニ様アリ

第一 國內ノ鑛山ヨリ得ルナリ

第二 外國ヨリ輸入スルナリ

若シ自國內ニ金坑アル時ハ金ヲ掘出ス坑夫ト
造幣所ニ運搬スル擔夫ヲ要シ且造幣所ニ於
テハ職人機関師監督及ヒ鑄造器械等ヲ要スル
ト明カナリ此等ノ職人機関師監督擔夫其他掘
出運搬鑄造ニ關係スル者ハ皆社會ヨリ之
ヲ供養セザル可ラズ然ラハ則此ノ諸人カ費ス

所口ノ衣食家火等ハ金貨ヲ得ルノ代リニ其國
ニテ之ヲ失フナリ持リ是耳ナラズ古諾人ハ其
業ヲ務ムル前ハ必ラズ生産カアル勤業ニ從事
セシナリ然レハ則ハチ其轉業ニ因テ其國貨物
ハ生産力減少セサルヲ得ス故ニ流通媒介ニ依
テ大利益ヲ得ントスルノ國ハ生産カアル勤業
ニ関スルノ勤メヲ失フノミナラズ生産力無キ
資本ヲ製スル人々ヲ給養セザルヲ得スモシ外
國ヨリ地金ヲ輸入セントスルハ許多人ノ勞
ヲ費ヤセシ産物ヲ以テ之ト交換セサルハウラ

ス是レ亦生産カアル資本ノ一部ヲ割テ他ノ生
産カナキ資本即地金ヲ求ルナリ且前ニモ云
ル如ク交易漸ク増加シ商業次第ニ繁昌ナルハ
ハ益スル多クノ貨幣ヲ要ス可クシテ而シテ其
貨幣ヲ増殖スルハ他ノ生産力ノ幾部分ヲ費ヤ
カハルヲ得ザルハ則貨幣ヲ節約スルハ豈ニ
緊要ノ事ナラスヤ之ヲ簡説スレハ乃チ僅少ノ
貨幣ヲ運用シテ巨大ノ働キヲ為サシムル此レ
ナリ且夫レ貨幣ノ用タルヤ價格ノ本位トナシ
通高ノ媒介トスルニ過キス故ニ交易ヲ為スニ

不足ナキ片ハ決シテ其他ヲ要スルノ理ナキ
ハ常ニ初學ノ者記憶シテ須臾モ忘ルヘカラサ
ルモノナリ假令ヘハ此ニ一國アリニ億萬圓ノ
金貨ヲ所有シ此ノ半高即テ一億萬圓ヲ以テ百
般ノ交易ヲ營ムヘキ方法ヲ發明セシ片ハ残り
一億萬圓ハ之ヲ貨幣ト為サス轉メ他ノ利益ア
ル種實家畜器械等ト為ナ得ルハ甚夕明ラカナ
リ
此ノ方法アル片ハ生産力ナキ一億萬圓ノ資本
ハ轉シテ生産力アル資本ト為ルヲ以テ現ニ國

中ニ流通スル所ノ貨幣ハ以前ノ半高ニ減少ス
ルト雖モ其國ナシテ富饒ナラシムルヤ實ニ洪
大ナリ

今若シ銀行ナシトセハ農商ハ勿論殆ント一般
ノ人民將來ノ仕拂ニ應センカ為メ或ハ臨時必
要豫備ノ為メ各自ノ貨幣ヲ家ニ貯藏スルヨリ
外ニ良手段ナキヲ以テ無數ノ金額ハ全ク流通
ノ道ヨリ退隱スベシ然ル片ハ通商ヲ營ムニ必
要ナル貨幣ノ外多少無用ニ屬シ利益スル所ナ
キ餘分ノ貨幣マルベシ若シ一國ノ情勢斯ノ如

キアラハ此ノ貨幣ハ乃チ世間ニ損失トナルモ
ノナリ如何トナレバ此ノ貨幣ハ曾テ生産力ア
ル資本ヲ費ヤシテ得タルモノナレバナリ然ル
ニ預金銀行ノ設ケマルキハ此等無用ニシテ利
益スル所ナキ貨幣ヲシテ轉シテ利益アラシム
ヘシ其故何ゾヤ金主銀行ノ信任スヘキヲ知ル
キハ有餘ヲ取テ之ヲ銀行ニ委託シ銀行ハ之ヲ
貸付ケ借人ハ此ヲ流通スレハナリ此レ乃チ一
國ニ現存スル財本ニ加フルニ他人ノ貨幣ヲ以テ
スルナクシテ新ニ物産ヲ興起スルニ至ルベシ

有名ナル理財學者云ヘルコアリ曰預金銀行ノ
設立スルキハ以前ヨリ少量ノ貨幣以テ商業ヲ
營ムニ要用トナルヘシ其故何レゾヤ各人其將
来ノ仕拂ニ供スヘキ者或ハ將來ノ買物ヲ為ス
ヘキ貨幣ハ之ヲ身ニ纏ハズシテ何時ニモ要
用ナルキハ取回スコトヲ得ヘシト信スル所ノ銀
行ヘ付托スヘシ銀行ハ之ヲ以テ商業ヲ便利ニ
シ生産ヲ奨励スル如キ方ヲ得テ之ヲ使用スレ
ハナリ
預リ金銀行ノ法アリニヨリ世間ノ貯金ハ日々

丹 藏 卷
収集セラレ銀行ハ之ヲ一纏メノ資本トナシ何
人ニテモ返辦スルニ差支ナキ者ヲ撰メ之ヲ貸
與スヘシ若シ是ノ法ナカリセハ是等ノ財本ハ
常ニ空ク櫥中ニ鎖閉セラレ國中各處ニ星散シ
毫モ利益ナクシテ己ハヘキナリ

古人ノ銀行ヲ論スル如此シ今若シ言ヲ變ヘ語
ヲ改メテ之ヲ云ヘハ銀行設立ノ功ハ取リモ直
サス無用ノ財貨ヲ取テ一國ノ資本ニ加フルニ
異ナラサレナリ此ノミナラス尚ホ銀行ハ貨幣
ヲ節儉スルノ一方アリ若シ銀行ナク諸般ノ仕

拂皆眞貨幣ニテ之ヲ為ス片ハ其貨幣人々ノ手
ニ轉移スルノ際摩擦損耗スルヲ以テ社會ノモ
ノ其損失ヲ受クヘシ此損失タルヤ往々甚巨大
ナルヲアリ一千八百拾六年ヨリ一千八百四十
三年マテ二十七ヶ年間英國貨幣ノ摩擦セシ
凡三拾万磅度本貨幣ニシテ凡一百五拾万圓ニ
當ルト云亦甚シカラズヤ是ノ損失ハ銀行ノ設
立以來大ニ減少セリ如何トナレハ諸般ノ仕拂
貨幣ニ易ヘルニ皆切手ヲ用ユルニヨリ眞ノ貨
幣ヲ要スルノ甚少ナレバナリ

通用貨幣ノ過半ハ皆不換紙幣ニシテ其製造費
ハ至テ些小ナル國ハ(日本ノ如キ)銀行ノ設立
ルモ貨幣ノ節儉及摩擦ニ付キ他ノ通用貨幣皆
眞貨幣ナル國ト同様ノ利益ナキハ明白ナリ然
ルニ如此キ場合ニ於テスラ銀行ノ大利益アル
ニ相違ナキモノハ銀行ハ浮遊シテ利益スル所
ナキ貨幣ヲ収集シ之ヲ利益アルノ地ニ使用ス
ルハ功用アルヲ以テナリ且日本後未ノ通用貨
幣ハ金貨ヲ以テ本位ト為ス可キ見込ナルカ故
ニ其期ニ至リ銀行ノ設立スルマラハ要スル所

ノ金貨ヲシテ甚小量ナルモ以テ商業ヲ營ムニ
差支ヘナカラシムヘシ

第二節

銀行ハ物品ノ製造及有益ナル工業ヲ勸奨
スルヲ

銀行ナキノ地ハ其物産ヲ製出スル大概甚夕小
量ナルカ故ニ常ニ大仕掛ニ製出スル如キ利益
ナシ譬ヘハ茲ニ生綿アリ僅ニ數人ノ製造者之
ヲ織テ布ト為ス片ハ大ナル製造所ニテ器械ノ
助ケヲ假リ大仕掛ニ製作シタル金布ノ如ク廣

價ニ賣捌クフ能ハサルヘシ之ヲ詳説スレハ初
ノノ製造者ハ孰レモ器械ヨリ多分ノ助ケヲ受
ルナリ殆ント全エテ躬ラスルモノナリ次ノ者
ハ之ト異ニシテ各個ノ工事ハ皆之ヲ夫レ々ノ
工人ニ分付シ加之工作ノ大半ハ器械ヲ頼ニテ
成ルモノナリ是ノ大量ニ物産ヲ製出スルノ利
益ハ次ニ示ス如シ

第一 分業ヨリ生ル所ノ利益

第二 器械ヨリ起ル所ノ利益

夫レ分業ノ益アルヲ説クノ書多ト雖ヒ三ツル氏

經濟論第一卷第一冊第八章ヨリヨキ者ハナシ
其文ニ云ルアリ「通例ノ頭針ヲ製作スルヤ總仕
上マテノ工事ヲ職工一人ニテ全ク之ヲ為ス片
ハ一人一日ニ頭針二十本ニ過キスモシ十人ヲ
一時ニ使役シ一人一個ノ工事ニ限ル片ハ一日
一人ニ付製出スル所ノ頭針四千八百本ノ多キ
ニ至ルヘシミル氏又曰勞力ヲシテ著シキ生産
カアラシムルニハ各個ノ工人ヲシテ可成文章
簡ナル一業ニ專一ナラシムルマテニ其事業ヲ
小分細割スルニ如クハナシト

器械ヲ使用スルヨリ起ル所ノ便益モ亦少小ナ
ラス試ニ之ヲ説明セル茲ニ一ノ工事アリ以前
ニハ二十人ノ勞力ヲ費ヤセシモノモ器械ヲ用
ユルニ至テハ僅カニ二三人ノ之ニ屬スルアレ
公其工事ハ容易ニ之ヲ為シ得ルヲ鮮カラス故
ニ一旦如此キ器械ヲ使用シ世間現出スルノ反
響ハ即チ十七人乃至十八人ノ勞力轉シテ他ノ
新ニ從事スルト以前ヨリハ著シキ低價ニテ商
品ヲ製出スルノニツナリ
日本ニテ歐羅巴ヨリ製造セシモノ及ヒ半ハ製

造セシ綿布類ヲ輸入スル者ハ何ソヤ歐羅巴各
製造所ニ於テハ分業ノ法及ヒ器械ノ助ケアル
ニヨリ今日分業ノ道未タ大ニ開ケス器械ノ功
未奏スルニ暇マアラサル日本ニテ自ラ製造ス
ルヨリハ格外ノ低價ニテ之ヲ製造シ萬里之ヲ
舶載スルモ猶彼ニ利アツテ而シテ我ニ損ナキ
ヲ以テナリ然リ而シテ是ノ分業ノ法ヲ用ユル
ニハ多人數ノ職工ナカルヘカラス器械ノ助ケ
ヲ頼ムニハ多分ノ代價ヲ費ヤスハ明白ナルカ
故ニ若シ製造者アリテ分業ト器械ノ利ヲ収メ

ニト欲セハ必ス多分ノ資本ヲ懐ロニセザルハ
カラス而シテ一ノ製造所ヲ立ツルニ充分ノ財
本アルモノハ至テ少シ假令此是ヲ設立スルモ
永ク之ヲ維持保存シ其業ヲ營ムモノ多カラス
如何トナレハ生粗品 ホタ製造モナルモノ生
綿生糸ノ類ナ云ノ仕
込作工ノ給料器械ノ修理等ニテ製造者ハ常ニ
多分ノ財本ヲ要スレハナリ此ニ於テ多量ノ財
本ヲ蓄積スル預金銀行ハ此等ノ製造者ニ貸ス
ニ必要ノ財本ヲ以テシ其人ノ望ミヲ達シ其業
ヲ營マシム故ニ銀行ノ設立ハ大ニ一國ノ富ニ

ヲ増スニ裨益スル所アルナリ
是ノ他銀行ノ一國ニ鴻益アルハ至要ナル工業
ヲ興起スル此レナリ假令ハハアル都會ノ地ヨ
リ他ノ鑛山或ハ開拓場ニ通スルノ新道ヲ開ニ
トスル片ハ之ヲ管理スルモノ六ケ年ノ租税ヲ
以テ漸々其出費ヲ辨スルノ法ヲ考按スヘシ此
時ニ際シ銀行ハ一度ニ財本ノ全額ヲ支給スル
テ數々ナリ故ヲ以テ此ノ新道ノ如キモ六年ノ
久キヲ歷スシテ一年ノ後ニ其成就ヲ觀ル可シ
其他橋梁堤防修船所等皆類ヲ推シテ知ルヘキ

ナリ

第三節

銀行ハ信用ヲ養成スルノ飯向アリ故ニ大ニ物産ヲ便利ニシ之ヲシテ繁殖セシムル

ナ

他人ヲ信シ毫モ其人ヲ疑ハサルヲ信用ト云

貨幣ノ為メ貨物ヲ賣ルトハ貨物ト引換ニ其代價ヲ得ルナ云

信用ノ為メ貨物ヲ賣ルトハ所謂^{ロケウリ}賒賣スルナニシテ其代價ヲ他日ニ収ムルノ約束ヲ得ルナリ

或ル國ニテハ(日本ノ如キ)其交易大概貨幣ノ為

メニシテ^{カケウリ}賒賣スルナシト雖ヒ歐洲諸國及亞

墨利加ニ於テハ信用ヲ以テ營業スルナ多シト

ス此ノ交易タルヤ非常ニ物産ヲ繁殖スルノ功

驗アリ例ヘハ甲乙二人ノ毛布ヲ製造スル者ア

リテ其所持スル所ノ資本モ亦同額タリ然ルニ

甲ハ能ク人ニ信用ヲ與ヘ又人ノ信用ヲ得ルト

雖乙ハ乃チコレナシ而シテ甲乙二人月初ソノ

景況左ノ如シ

所持金

十萬圓

大蔵省

是ノ資本ハ次ニ速ルカ如ク之ヲ仕拂ヘリ

職人給料 三萬圓

生粗品 六萬圓

雜費 壹萬圓

右三口合テ 十萬圓

其月末ニ及テ甲乙兩人ノ景況左ノ如シ

所持金 皆無

生粗品 皆無

製造品 拾萬圓

是ノ拾萬圓ノ貨物ハ壹萬圓ノ利潤ニテ賣捌ク

ヘキモノトス然ルニ甲乙ノ兩人猶列續キテ此

ノ製造ヲ為サシニハ右ノ製造品ヲ賣捌キ再ヒ

生粗品ノ仕込ヲ為シ工人ノ給料ニ充テザルヘ

カラス是ニ於テ甲ハ兼而製造セシ貨物ヲ數多

ク商人ニ分配シ其代價ハ一月二月乃至三ヶ月

ノ約束ヲ以テ各商人ヨリ仕拂フヘキ手形ヲ振

出シ右ノ手形ヲ銀行ヘ送ルヘシ銀行ハ手形ト

引替ニ仕拂期限マテノ利息ヲ割引シテ其殘額

ヲ甲ニ送付スヘシ右ノ法ヲ用リ甲ハ再

ヒ貨幣ヲ得テ少モ間斷ナク營業ニ従事スル

ナ得ヘシ是レ甲カ商人ニ與フルニ信用ヲ以テ
レ一ノ約束ヲ頼ニテ其貨物ヲ任シ而シテ銀行
モ亦同様甲ノ保證ニヨリ商人ヨリ仕拂フヘキ
約束ヲ得テ甲ニ用立ニ貨幣ヲ以テスレハナリ
乙ニ至テハ全ク然ラサルナリ所謂信用ヲ與レ
ナク又得ルヲモナキカ故ニ再ヒ自己ノ製造所
ニ於テ其職業ヲ始メントスルニハ是非共先ツ
現金ニテ製造品ヲ賣拂ハザルヲ得ス而シテ是
ノ賣拂ヒニハ多ク時日ヲ空費スヘシ故ニ甲カ
營業ノ多寡ハ信用ノ廣狹ト器械力ノ大小ニ因

テ制限セラレ乙カ營業ノ多少ハ現金ニテ貨物
ノ賣リ上ケ高ニ從テ制限セラレ、ナリ其大小
不同アルハ今更喋々スルニ足ラサルナリ之ニ
因リ之ヲ觀レバ貨幣或ハ貨物ヲ借ルヲ得ルノ
力即信用ナル者ハ貨物ヲ融通シ貨幣ト同ク物
産ヲ繁殖スル一良手段トスルニ足レリ故ヲ以
テ大抵製造ニ関スルノ營業ハ信用ヲ以テ通商
諸國ニ行ハルナリ
是ノ信用ナルモノハ何程ノ働キヲ為スカナリ
ルニ當時英國ニ於テ流通貨幣ノ高恐クハ百億

萬磅度ニ過キス而シテ為替手形及約束證書
類貨幣同様ノ働キヲ為スモ、其數幾百億高ナ
ルヲ推知ス可ラサルノ實事アルヲ見テ益々其
緊要ナルヲ知ル可シ今モシ銀行ノ助ケ無キ片
ハ一國ノ通商ニ関シ大ニ利益アル所ノ信用ハ
逆モ成立シ難ナルヘシ目今日本ノ如キハ殆レ
ト信用ノ二字未タ登動セサルカ如シ然レモ吾
輩ハ銀行ノ設立ニヨリ早晚其形容ヲ現出シ遂
ニ交易上ニ美果ヲ結フ有ラントテ深ク希望ス
然レモ吾輩モシ此ノ信用ノ屈指ノ間ニ興起ス

ヘシト認ルル如キハ誤謬ノ最モ甚シキ者ニシ
テ決シテ其連成セザルヲ知ルナリ又銀行ハ信
用ノ樞軸ナルカ故ニ之ヲ確乎トシテ不拔ナル
基礎ノ上ニ設立シ他日信用ノ権力次第ニ發生
スルノ期ニ至リ萬一銀行ノ衰頹スルトナルモ
之カ為ニ信用ノ地ニ墜ルトナキヲ以テ緊要ト
ナスヘシ
銀行ノ方法ヲ設立スルハ強ク難事ニ非ラサル
ニ似タリ若吾人亞墨利加合衆國又ハ英國ヲ經
過スルキハ各地ニ於テ銀行ノ設立スルト其

ク營業スルトナ目撃スヘシ吾人必其容易ニ
業スルヲ見テ其設立ノ敢テ難キニテラナリナ
思想スルナルヘシ然レモ其實ハ全ク吾人ノ想
像ト相反スルナリ

何事ニヨラス其外見甚草簡ニシテ設立ノ後商
宜ニ動作スル慶ノモノモ之ヲ未開ノ民間ニ設
立シ又之ヲ其人民ニ解得セシムルハ容易ノ業
ニアラズ預金銀行ハ則是ノ種類ナリ銀行ノ本
質タルモ乃チ多勢カノ人一致シテ少數ノ人ヲ信
用スル是レナリ然ルニ多勢カノ人ヲ驅リ之ナ

テ同一ノ思想ヲ懷キ同一ノ事ヲ為サシムルハ
甚難事ニシテ必要ノ事故アルニ非ラサレハ決
シテ之ヲ為スヲ能ハス而シテ銀行ノ如キハ左
程必要ノ事無キナリ今試ニ佛國一田舎ヲ以テ
之ヲ證セシ當時猶英國ニ現在スル如キ銀行方
法アルヲナク券書簿冊ノ何物タルヲ知ルナク
又貨幣ノ銀行ニテ取扱フモノ甚ノ稀少ナリ人
民其省約シタル貨幣ノ未タ使用ノ見込アラサ
ルモノハ之ヲ銀行ニ預クルヲ得バシ然ルニ
世間ニ浮遊スル貨幣ハ大抵之ヲ自家ニ保存

之ヲ櫃底ニ藏蓄スルノミ下畧
預金銀行ヲ開業スルハ之ヲ一難事ト云ハサレ
ヲ得ス如何トナレハ人民ハ已レノ貨幣ヲ鑒視
ノ外ニ手放シ殊ニ抵當品ナクシテ之ヲ他人ニ
托スルヲ欲セサレハナリ況ヤ衆人ヲメ舉テ保
証スルヲク視察スルヲク之ヲシテ委託スルノ
人ヲ信セシムルニ於テオヤ

以上論述シ来ルモノハ當時銀行ノ大學士ウチ
ルテルベリシホト氏カ著ハセシロバート、ス
ー、ト、エ、デ、ス、ク、リ、プ、シ、ヨ、ン、オ、フ、ゼ、モ、ニ、

一ウツトナル書ニ載スル者ナリ
目下日本ニテ預金銀行ノ設立アルモ瞬息間ニ
世間ノ信用ヲ得ル如キハ決シテ吾輩ノ期スル
所ニアラス必ス他各國ノ如ク其進動甚遲緩ニ
シテ除々歩ヲ進ムルナルヘシ
且又世間ヨリ貸リ入レタル資本ヲ返辦シ能ハ
サル如キ不良ナル銀行ノ設立ルアラハ大ニ
信用ノ前進ヲ妨害シ一國高賣上ニ大不幸ヲ招
クヘシ故ニ吾輩ハ第一ニ方法ノ善キト第二ニ
管理ノ良ナルヲ以テ最モ緊要トス

既ニ前ニモ論セシ如ク銀行ハ信用ノ樞軸ナル
ナリテモシ銀行ニ此ノ缺乏アルハ必信用ノ
全體ニ差響クヘシ且預金銀行ノ進歩ハ通例遲
緩ニシテ其本然ノ性質ヨリ之ニ見ルモ亦遲緩
ナラサルヲ得サルナリ然レモ間々突然興起ス
ルコトアリ此ノ如キ者ハ其結局大抵甚タシキ災
害ヲ来タセリ有名ナル一學士ヘンクローヂニク
マクレオット氏所著セオリ、エンド、プラクテス、
オフ、バニキング、第一卷第百二十九節ニ云ヘル
コトアリ曰今モシ非常ニ多量ノ財本世間ニ突出

スルコトアラハ其成跡ハ金利ノ割合ヲシテ忽チ
非常ノ低下ヲ致サシムヘシ銀行ノ急ニ興起ス
ルモ亦多量ノ財本一時ニ世間ニ突出スルト同
一ノ果實ヲ結フヘシ下畧
又曰銀行事務ノ大ニシテ且利益アルハ實ニ之
ヲ量リ知ル可ラス然ルニ何等ノ商業ヲ論セス
絶タ至急ノ廣溢ヲ為シ至速ノ増加ヲ起ス片ハ
多少世間ニ損害ヲ起シ衆庶ノ不幸ヲ来タス可
クシテ而シテ銀行ヲ以テ最モ甚トス且世人
カ嫉妒心ヲ懷キ嫉視スルモノハ銀行ノ時狂ニ若

クモノナク政府カ注目預防スルモ亦銀行ノ時
狂ニ若クモノナシ
銀行ノ絶々迅速ニ増加スルノ害ハ甚高ノ射利
ヲ勸誘スルニマリ今一例ヲ舉グ以テ之ヲ明解
セシ譬ヘハ多クノ銀行急ニ設立マルニ因リ貸
借スヘキ多量ノ財本ハ銀行ヘ収集セラレ而シ
テ此財本ハ鉄品ヲ賣買スル商人ヘ貸シ出ロシ
トスベシ如此ク商人ノ手ニ多分ノ資本アル片
ハ鉄品ノ値ヒ日ニ騰貴スヘシ如何トナレハ鉄
品ヲ買フヘキ充分ノ財本アリテ而シテ鉄品ノ

任^ニ依然トシテ舊トノ如ク少モ増加ナキカ故
ニ鉄品ノ製造者ハ以前ヨリ賣品ノ價ヒヲ騰貴
シ多分ノ代價ヲ貪ルカ故ナリ且鉄價ノ騰貴ニ
ヨリ次ニ揚クルニツノ反響ヲ生スヘシ
第一 製造者ハ鉄品ノ價頗ル割合ヨキヲ以テ
多クノ品ヲ製出スベシ
第二 消費者ハ以前ヨリ鉄品ノ價騰貴ナルカ
故ニ其消費ヲ減少スベシ
右ノ如ク供給ハマタ多クナ加エテ而シテ需用
ハ日ニ少キヲ加フテ其結局物品

過度ニ充實スルナルテ其相庭忽チ低下シ鉄高
ハ鉄呂ヲ擁シ坐シテ破産傾家ヲ来タシ其害世
間ノ理財上ニ波及連累シ窮窮スルモノ少ナカ
ラザルニ至テ止ムノミ如此キハ古今其例シ少
ナカラス而シテ此ノ變事ニ遭遇シ遁ル可ラサ
ルノモノハ乃チ信用ノ縮小ヲ致シ世間ノ營業
ヲ挫折スル此レナリ

右ニ論スル所ヲ以テスレハ初學ノ者ナシテ銀
行ノ利害得失ヲ了知セシムルニ於テ充分ナル
ハ且吾輩銀行設立ノ要訣ハ銀行ヲ立

ツルノ良ト之ヲ管理スルノ善ナルニ在ルヲ深
ク信ス

幾
省

第三章

銀行事務管理法

今將ニ銀行事務ヲ管理スルノ方ヲ推究セント
ス抑銀行ハ之ヲ分ツテ二派ト為ヘシ曰ク私立
銀行曰合本銀行是レナリ私立銀行ハ僅々數人
ヨリ成立スルモノニシテ通例其内ヨリ一兩名
ヲ撰ミ其事務ヲ取扱ハシム

合本銀行ハ前者ト全ク相反シ多人數ノ所有ニ
シテ其社中ハ乃テ所謂株主ナリ其内ヨリ四五
名ヲ撰舉シ銀行ノ事務ヲ擔任セシム是ヲ取締

役トシ此ノ數人ノ外ハ決シテ一入タリ凡銀行
事務ニ干與スルコトナシ古ヘハ合本銀行ナルモ
ノナカリシカ今世現ニ成立スル處ハ銀行ハ大
抵是ノ合本銀行ニアラザルハナシ故ニ吾輩今
銀行事務取扱ノ方法ヲ論スルハ此合本銀行ニ
據ル

合本銀行ヲ設立セントスルニ當リ第一ノ着手
ハ乃チ資本ノ集収ナリ是ノ資本ハ通例之ヲ分
割シテ定數何株トシ一株ニ付定價何程トス譬
ハハ一ノ銀行アリテ一百万圓ノ資本アレハ之

ヲ小分シテ一株百圓株數一萬トシ或ハ一株五
十圓株數二萬トスルノ類ナリ而シテ此ノ銀行
資本ハ世間ニ對シ預金ノ保証トナルヘキモノ
ナリ故ニ銀行ノ一邊ヨリ見ルハ多分ノ資本
ニ欲セサル如シ如何トナレハ資本金彌少ケレ
バ各株主ノ所得益々巨大ナルヘキヲ以テナリ
故ニ是ノ一點ヨリ思想ヲ下スルハ銀行ハ常ニ
些少ノ資本ヲ有スヘキ筈ナリ然ルニ他ノ原因
アリテ大ニニ資本ノ多少ニ關係スモレ一ノ銀
行アリ其所有スル所ノ資本甚僅少ナルハ世

間ノ信用ヲ得ルヲ亦甚少キヲ以テ預金モ從
テ僅小ナラザルヲ得ス是ニ於テ銀行ハ世間ノ
信憑ヲ得世人ヲシテ一旦銀行ニ大損失アルモ
銀行所持ノ資本充分ニシテ預金返消ニ於テハ毫
モ渋滞ノ憂ナシト信セシムル程ノ資本ヲ備ル
ヲ以テ常トセリ又株主タルモノハ其株ノ全額
ヲ一度ニ銀行へ入金スルヲナク大抵月賦又ハ
年賦ヲ以テス此レ甚見易キノ理ナリ抑一ノ銀
行開業スルニ當リ決シテ一度ニ巨額ノ預金ヲ
得ルヲナシ故ニ銀行資本ノミ一度ニ入金スル

ハ保證ノミ徒ラニ巨大ナルヲ以テナリ且又銀
行ハ安全ニシ且ツ利益アル道ニ於テ一度ニ巨
額ノ資本ヲ使用スルヲ能ハス故ニ銀行資本ハ
銀行負債ノ増加ニ準シテ次第ニ収集スルヲ常
トス然レモ銀行資本必ス負債ノ高ニ準スヘシ
トハ確言シ難キモ可成丈不時ノ災害アルニ當
リ銀行債主ヘ對シ十分ノ無難ヲ保證スヘキ程
ノ割合タルヘシ
合本銀行ノ事務ハ株主ヨリ撰擇シ取締役ト名
ケタル數人之ヲ管理ス是ノ取締役ハ銀行事務

取扱ノ規則ヲ制定シ支配人及ヒ屬吏ヲ撰任ス
而シテ銀行事務ハ重ニ歸着スル所ハ支配人ニ
シテ取締役ハ日々出席スルニ及ハス且取締役
ハ通例銀行事務ノ一部ヲ分治スルヲナク常ニ
銀行事務ト一般ノ様子ヲ見テ之ヲ監督スルヲ
以テ其本務トス

支配人ハ取締役ト相及シ其職務タルヤ是ノ事
ハ斯ク處スヘシ彼ノ件ハ斯ク為スヘカラスト
逸々指揮スルノ權アリ(取締役ノ見込ト其規則
ヲ遵奉スルハ勿論ナレト)而シテ何程瑣末ノ事

故タリト支配人ノ兼認ヲ受テサルベカラス故
ニ支配人ハ取締役ノ隸官屬吏タリト雖ト銀行
ニテハ最モ必要ナル役人ニシテ銀行營業ノ良
否ハ大抵支配人ノ善惡ニ関スルモノトス
支配人ニ踵キ銀行ニテ緊要ナルハ計筭方及掌
金者ナリ計筭方ハ帳面及會計ヲ掌リ掌金者ハ
貨幣ノ出納ヲ管ス

夫ノ巨大ナル銀行ハ大概其事務ヲ分割ス其區
別左ノ如シ

第一貨幣局

金銀ノ仕拂及受取リヲ管掌ス

第二貸付局

貸付ノ事務ヲ管掌ス

第三預り局

預托ノ事務ヲ管掌ス

第四支店並為替局

支店ノ事務ヲ管掌ス

第五通信局

文書ノ往復ヲ管掌ス

第六株式局

株金及分配金ノ事務ヲ管掌ス

第七抵當局

公債証書等ニ関涉スルノ事務ヲ管掌ス

第八主計局

會計及主簿ノ事務ヲ管掌ス

右ノ各局ニハ必ス施行事務ノ精細ヲ登記スル簿冊アリ殊ニ主計局ニ於テハ他ノ各局帳簿ノ要畧ヲ登記シ之ヲ總括スルノ一簿冊ヲ備フ此レ處分セシ事務ノ検査ヲ便ニシ且他各局精細帳簿ノ正否ヲ檢スルニ會テハ大ニ其功驗アルカ為メナリ此ノ如キ方法ヲ以テ適宜ノ規則ヲ立ツルハ最モ緊要ニシテ若順序ナクハ法ナク規則ナキハ何ヲ以テ銀行事務取扱ヒノ良好

ナルヲ得ルヤ

銀行事務管理法ノ細目ヲ緻密ニ説明スルハ吾輩ノ深ク欲スル所ニアラス吾輩ノ主トスル處ハ學生ノ最モ必要トスヘキ大綱ヲ舉テ之ヲ指示セント欲スルニ在リ乃チ其考察スベキ者ハ銀行事務ヲ管理スルノ二要旨是レナリ
第一銀行ハ如何ナル方法ニヨリ最モ多量ノ預金及ヒ他ノ資本ヲ得ヘキカ
第二銀行ハ償還ノ期ニ背違セス如何ナル方法ニ於テ斯ク得タル處ノ資本ヲ使用シ普キ利潤

ヲ得ベキカ

是ノ二條疑問ノ考察ハ吾人ナシテ銀行事務取扱ノ方ヲ熟知セシムルニ足ルベシ
夫レ銀行事務トハ即チ貨幣ヲ借り及ヒ之ヲ貸スノ二件ニ過ガルヲ以テ銀行タルモノハ借ルト彌多ケレハ其所得從テ多キハ言ハスレテ明白ナリ然リ而シテ何人ヲ論セス已レ必要ノ時ニ當リ預金ヲ取回スル能ハガレカ又ハ銀行ガ曾テ約セシ期ニ返辦セザル等ノ忌マキハ預ケ金ヲ為サ、ルハ勿論ナルベシ、
ナリ以テ銀行

カ第一ニ且貴重スヘキ秘訣ハ則世間ノ信用此
レナリ而シテ是ノ信用ハ如何ナル乎ナリ以テ
之ヲ確立スヘキト問ハ、吾輩將ニ之ニ答テ言
ハレトス信用ヲ確立固定スルハ次ノ數条ニ注
意スルニ在ルニ而シテ是レ皆一朝一夕ノ業
ニアラズ第一銀行取扱人ハ正直信實タルヘク
第二ハ前ニモ云ヘル如ク萬一銀行ニ損失アル
モ害ヲ得意先ニ及ホスナク之カ保証トナルヘ
キ程ノ充分ノ資本ヲ所有スヘキト第三預金ノ
返償ヲ需ムルモノアラハ何時ニテモ極メテ敏

捷

捷ナル手續キテ以テ之ヲ返辨スルト此ノ第三
条ハ銀行ノ最モ貴重スル所ニシテ信用ノ發生
ト確立トニ関シ決シテ缺クヘカラザルノ要訣
タリ且夫レ銀行之権力ヲ設立スルハ借入ニア
ラスシテ貸主(世間ノ預金ヲ為ス者ヲ指ス)ニ在ルヲ回想スレ
バ益ス々此ノ數件ノ銀行ニ緊要ナルヲ了解ス
可ク貨幣數百萬圓ノ多キモ之ヲ借ル人ナキヲ
憂ヘス若シ一ノ貸主ナキハ銀行ハ何ヲ以テ
業ヲ營ムヲ得ンヤ
抑預金ヲナスヤ種々ノ法式アリ

歳省

第一 持主ノ存意ニヨリ何時ニテモ取止スヘキ約束ニテ預金ヲ為スマリ之ヲ當座アリト稱ス

第二 預人ヨリ日數三日十日十五日乃至二十日以前預金ノ取回シテ銀行へ報知スベキ約条ニテ預金ヲ為スマリ之ヲ通知預リト稱ス

第三 三ヶ月六月乃至一年ノ期限ニテ預金ヲ為スマリ之ヲ定期預リト稱ス

銀行取扱人カ思考ヲ賣スヘキ第二ノ疑問ハ乃チ此ノ預金ヲ使用シテ著シキ利潤ヲ得ル如何

ニ在リ而シテ銀行が欲スル所ハ可成文永期ノ貸付ヲ為シテ可成文高キ利息ヲ収ムルニ在ルハ勿論ナルベシ然レモ何時ヲ論ゼス預金ノ取回ヲ望マル、其ハ速ニ之ニ應スベキ貨幣ヲ手元ニ準備スルノ緊要ナルト銀行貸付金必用ノ時ハ差支ヘナキヲ保スル如キ約束ト抵當トヲ得テ之ヲ貸出スニ注意セサルベカラス

貸付金ノ期限ト抵當品ニ付一定ノ則ヲ立テ不拔ノ規ヲ畫スル能ス故ヲ以テ一ノ貸付金ニ一場ニ在テハ尤モ適宜ニシテ且安穩ナルモ他

ニ在テハ全ク及異スルマリ是ヲ以テ銀行資本
ヲ貸付金トシ使用スルニ際シ須ク細心注意ス
ベキハ乃其貸付金世間ノ要求ヲ受ルナク安然
之ヲ貸付得ルノ期限此レナリ譬ヘハ甲ノ銀行
ハ全ク當座預リニテ一百万円ヲ所持シ而シテ
乙ノ銀行ハ定期預リニテ同ク一百万円アリト
セバ貸付ケ得ル處ノ期限及使用スル金額ニ関
シ甲乙事情ノ相及スル殆ント霄壤ノ異ナルア
リ甲ハ何時預金巨額ノ返辦ヲ望マルモ量リ
難ク且絶ヘス預金ノ内小部分ノ返辦ヲ望マル

ベシ故ニ甲ハ通例ノ需メニ應ゼル為メ若干ノ
正金ヲ手元ニ貯ヘ且残額ハ短キ期限ナルハ勿
論持主ヨリ銀行ヘ巨額ノ請求ヲ為ス片ニ當リ
萬一返辦ニ差支エルコトアル片ハ遲滞ナク賣却
シテ持主ヘ返償スルニ足ルヘキ抵當ヲ得テ之
ヲ貸付ルコトニ注意セザルヘカラス
然ルニ乙ノ銀行ハ如此キ至急ノ催促ヲ受ルコ
トナク其預金ハ金主ノ一存ニテ取回スコトナク必
其期日ヲ待ツヘシ而シテ其期日タルヤ六ヶ月
或ハ一年ノ久キヲ亘ルコトアリ故ニ乙ハ永期ノ

貸付ヲ為スヘク且其収ムル所ノ抵當モ強ク賣
易キヲ擇フニ及ハサルヘシ如何トナレハ急ニ
之ヲ販賣シ其持主ニ償フ如キ逼迫ノ憂ナケレ
バナリ故ヲ以テ銀行貸付金ノ性質ハ多少其預
金ノ性質ニ因テ變換ス譬言ヘハ銀行資本全ク定
期預ケナル片ハ永期ノ貸付ヲ為スヲ得ヘシ
若シ全ク當座預リ或ハ其一部當座預リニシテ
他ノ一部ハ通知預金ナル片ハ其貸付タルヤ極
メテ短期ナラザルヘカラズ或ハ預金ノ一部定
期ニシテ其餘ハ皆定期ナラザル如キハ各其固

有ノ性ニ從テ之ヲ使用セザルベカラザルガ如
シ
貸付ノ外銀行ハ猶其資本ヲ使用スベキ一ノ方
法アリ乃チ公債抵當此レナリ此ノ公債抵當ノ
利息タルヤ大抵低價ニシテ他ノ貸付金ニ及ハ
ザルヲ遠シ然リ而シテ其利益貸付金ニ勝ルモ
ノアリ即チ正金ニ交換スルノ甚タ易キ此レナ
リ英吉利佛蘭西亞墨利加各國ニ於テハ公債證
書ノ多數ヲ銀行手元ニ貯藏スルヲ以テ通習ト
ナスモノハ他ナシ貨幣ノ流通不意ニ壅塞スル

中ハ遲滞ナク之ヲ賣却シ得ルヲ以テナリ且此
等ノ各國ニ於テハ斷ユス公債證書ヲ買ヒ求ル
モノ多シ故ニ之ヲ交換シテ正金ヲ得ルノ極メ
テ容易ナリ然ルニ日本ノ如キハ之ト反シ公債
證書之多數ヲ急ニ賣却スルニ由シナク且之ヲ
要求スルモノ甚タ多カラザルナリ之ヲ以テ之
ヲ觀レバ日本ノ公債證書ハ日本ニテ之ヲ抵當
トスルモ他各國ノ如ク資本使用ノ良法ニアラ
ズ如何トナレハ之ヲ正金ニ交換スルノ自由
ナラザルヲ以テナリ

之ヲ概スルニ銀行ニテ取ル處ノ抵當種類ノ善
キ者ハ次ニ述ル如キ者ナルベシ

第一 無難

第二 期日ニ於テ返辦確實ナルヲ（モシ貸付金
ナレバ）

第三 不時必要ノ際正金ノ交換ニ適當ナルモ

第四 減價ノ憂ナキモノ

以上各般ノ性質ヲ具ルモノハ謹慎ナル銀行支
配人ガ其資本ヲ使用スルニ當リ最モ注心傾耳

シテ之ヲ搜求スル所ノ者ナリ且前ニモ指示セ
シ如ク差支ナク不時ノ請求ニ應スルノ能力ハ
乃チ銀行第一ノ義務ナルヲ以テ支配人ハ以上
諸件ニ於テハ須ク心志ヲ費スヘキナリ
然レモ世間貸付金ノ多分ハ無難ニシテ且價ヲ
減スル如キ憂ナキモ之ヲ正金ニ交換スルニ不
便ナルカ或ハ期日ノ返辦ニ差支ユルヲナキヲ
保スル能ハス家屋土地等ヲ抵當トシテ貸付金
ヲ為スガ如キハ到底無難ニシテ減價ノ憂ナカ
ルベシ然レモ財源壅塞シ流通切迫スルノ際ニ

ハ一概ニ之ヲ以テ資本使用ノ好マシキ者ト云
フ可ラズ如何トナレバ此ノ如キ時ニハ此ヲ正
金ニ引替ル甚難キヲ以テナリ故ニ如此キ貸付
金ハ^{土地家屋ヲ抵當ト}持リ不時ノ需メヲ受ケ
ガレ銀行ノミ之ヲ施行スルヲアルベシ且定期
預リ金ヲ以テ如此キ貸付ヲ為スモ猶且其高ヲ
制限シ其度ニ過ガルニ注心スベシ一種特殊ノ
抵當ヲ得テ貸付ヲ為スニハ實ニ其金額ヲ制限
スルノ法則ナカルベカラズ其故何レゾヤ銀行
ハ鉄綿絹ノ如キ特殊ノ抵當ヲ以テ過分ノ貸付

ナ為シ萬一其抵當品ノ價急ニ下落スルヲアラ
バ世人或ハ其借金ヲ返辦シ能ハスシテ銀行ハ
非常ノ損失ヲ蒙ルヲアルヲ以テナリ
吾輩ガ辨論セシ銀行事務取扱ノ常理ニ付余試
ニ之ヲ概言セン

第一 銀行設立ノ良法

第二 可成丈多量ノ預金ヲ誘引スルヲ

第三 預金返償ノ期ニ背違セズシテ其資本ヲ
使用シ銀行ヲシテ著キ利潤ヲラシムル

ヲ